

6月14日（月）県立彦根翔西館高等学校を訪問しました！

対談テーマ

これからの魅力ある高等学校づくりについて

県立高校の統合を経て平成28年に開校した彦根翔西館高校の特色ある学びの取組を視察し、これからの魅力ある県立高等学校づくりについて対談しました。

訪問した委員

岡崎 正彦 委員 野村 早苗 委員 石井 太 委員

県立彦根翔西館高等学校について

「進路実現」「地域貢献」「生涯学習」を教育方針の柱とする彦根翔西館高校は、県立高校2校の統合により、平成28年に開校して6年目を迎えました。5つの系列（「探究（普通）」「スポーツ科学」「家庭科学」「会計ビジネス」「情報システム」）の開講科目から、自分の興味・関心や進路希望に応じて学ぶことができます。また、検定合格や資格の取得、部活動にも力を入れた教育を進めています。

意見交換より

委員：生徒自身が系列を選択するに当たり、学校のサポート体制はどうしているのか。

学校：「産業社会と人間」という科目で時間を掛けて生徒へ説明したうえで、高校1年の後半から系列を選択させている。一方で、2年半で各系列の専門性を修得させることには苦労もある。

委員：教員に時間のゆとりを持たせ、研鑽に励ませるため、どのように取り組んでいるのか。

学校：複数指導や分掌事務の平準化などの手法を駆使して、教員のゆとりの創出に取り組んでいるが、科目の種類が多く、授業の素材の使い回しが効きにくい総合学科の特性のため、業務が繁忙となる場合がある。

委員：各系列でそれぞれどのように教員の専門性の確保を図っているのか。

学校：それぞれの教員が資質向上や授業改善に取り組んでいるが、特に専門性の高い分野については、外部講師のお力も借りている。

